

# 平成28年度 薬物乱用防止教室

講師：北海道厚生局麻薬取締部指定薬物専門官

平成28年7月22日(金)、本校体育館において、講師に北海道厚生局の麻薬取締部指定薬物専門官の方をお迎えして「薬物乱用防止教室」を開催しました。

今回の講演では、厚生労働省の麻薬取締部指定薬物専門官という職についてやスライドを使用し薬物犯罪の実態や薬物の種類や症状について説明がありました。毎年実施される本教室ですが、今年度は実際に最前線で麻薬犯罪に立ち向かっている指定薬物専門官の方の生のお話を伺い、改めて薬物乱用の恐怖や危険性を理解する大変有意義な時間となりました。



## ～生徒の感想より～

本日の講話で麻薬取締の専門公務員がいるということを知りました。今まで「麻薬を捜査する職＝警察だけ」と思い込んでいただけに衝撃が大きいということもあります。驚いたのは「拳銃の所持」が認められているということです。「麻薬を取り扱う組織」ということは「反社会的組織」であるということを考えれば納得です。しかし、そういった危険な組織と正面から渡り合うのが「警察などの肉体派」ではなく、大学などで薬のことについて学んできた「いわゆる頭脳派」というのは意外でした。国家公務員の試験を受けた後に、当然そういった訓練は受けているのですが、それでも「専門職の人間だけで固めた組織」というのには驚かされました。

次に気になったのは「薬物の中に手の出しやすさ」のようなものがあるということです。スライドで出てきた「タバコく大麻く覚醒剤」という図式のように「手を出す順番」そして深く暗い薬物の道へ続く「ゲートウェイドラッグ」の存在を知りました。

最後に、ヒロポンの発禁後に1度はゼロに近い数値まで減らすことに成功しているのにも関わらず高度経済成長期以降、減ることはあっても根絶までには至っていないことを考えると、日本だけでなくグローバルな規模で広まっていることが分かり、世界規模での協力体制構築の必要性を感じました。

(3年男子)



今回は、いつもと違う角度から薬物乱用について考えることができた。薬物乱用に関することは勿論のこと、薬物専門官についても知ることができたので印象に残ったことが多くあった。

薬物乱用はしてはいけないことだと分かっていたし、自分にとっては別世界の話だと思っていたが、今回のお話を聞いて、自分の周りには沢山の危険やそれに結びつくかもしれないこと(SNSなど)が潜んでいることがよく分かった。薬物に依存している人のことを見たり聞いたりしたことでも更に薬物乱用への恐怖心が高まった。

現在、芸能界やスポーツ業界で薬物乱用(特に覚醒剤の使用)の問題について報じられている。だからこそもう一度、薬物乱用についてしっかり考えるべきだと感じる。ちょっとした意識で薬物乱用を防止出来ると思った。部活が終わった今、進路が決まった後の休みは気が緩んでしまい、いつも出来たことが出来なくなったり、羽目を外しやすい時期だと思うので他人事だとは思わずに気を付けて過ごしていきたい。(3年女子)

毎年実施される薬物乱用防止教室ですが、今回の講話は去年より内容が深かったように感じました。まず、麻薬取締部について、国家公務員であり厚生労働省に所属していると聞き、薬物の捜査は警察の仕事だと思っていたので、これは新たな発見でした。そして、そこで仕事をしている人は薬学のエリートなので大変格好いいと思いました。

次に、平成16年の新聞の記事で小樽の女子高生が薬物乱用をした事件で、女子高生が「大麻ごときで逮捕されるとは思っていなかった」と言っていて、ここに薬物の恐ろしさを感じました。女子高生は薬物を使用しているうちに感覚が麻痺して、まともな考えが出来なくなっていたところに薬物乱用の恐ろしさが強く伝わってきました。薬物乱で気を付けるべきは一番最初、つまり一度目の使用をするかしないかが肝心だと思いました。いかにそういった世界に巻き込まれないようにするのか、そのためには一番危険な「友人などの身近な人たちの誘い」これに気を付けるべきだと感じました。それと同時に身近な人で薬物乱用をしている人がいたら止めたいと思いました。仲間を止める勇気を一人一人が持てたら被害にあう人がもっと減るのではないかなとも思いました。(2年男子)

今回の薬物乱用防止教室を通して、薬物について沢山のことを学びました。麻薬取締官は厚生労働省の国家公務員であり、通称「マトク」、「麻薬Gメン」と呼ばれていて、その約半数が薬学系の出身であることが分かりました。麻薬取締官の人数、麻薬取締部が全国に何カ所あるのかということや、その危険な任務から拳銃の所持が認められていることを知りました。現在最も乱用されている薬物は覚醒剤(S)で平成26年には1万人以上の乱用者が確認されており、とても多い数字だと思いました。また、平成27年の全薬物犯罪検挙数約1万3千件中の約8割にあたる千2百件が覚醒剤による犯罪で覚醒剤による検挙がとても多いことが分かりました。

覚醒剤の他にも大麻やMDMA、ペーパーLSD、ヘロイン、コカインなど沢山の違法薬物があることを知りました。覚醒剤は0.15g(袋入りで0.2g)で約1万円、大麻は1g約5,000～8,000円ととても高価な物であり、そのお金を調達するために家族や友人から借りたり、恐喝や喝上げ、窃盗など様々な犯罪に手を染めてしまうことはとても恐ろしいことだと思いました。また、お金を

手に入れるために末端利用者が密売人になるケースも多く、その売り上げが暴力団の資金源となることも分かりました。

友達や先輩に誘われNOと言えずに、はたまた好奇心や軽いノリで…薬物はたった一度でも手を染めてしまうと止められなくなり薬物中心の生活になってしまう恐ろしいものです。最近では、ネットを通じて簡単に密売人・中毒者と知り合うことが出来たり、サレで簡単に購入できてしまうことから、十分に気をつけなければならないと思いました。(2年女子)

覚醒剤は自分、周りの人を苦しめるとんでもないものだと思った。覚醒剤を使用してしまうと自分の脳が破壊されてしまう、とても危険なものだと思う。一度手を出してしまうと止められなくなり、どんどんお金を費やし友達や家族から借金をしたり盗みをしてしまったり人生ぐちゃぐちゃになるため絶対にいけないことだと思う。こういうことにならないためには何があっても覚醒剤はしっかりと断り、売り子から買わないようにすることだと思う。最近のニュースでは有名芸能人が沢山覚醒剤使用で捕まっているが、その人たちも誰かに勧められたり、いろんなストレスが溜まって使った人もいるようだが、だからといって絶対に使用してはいけないと思う。今まで積み上げてきたものが全てパーになり一生後悔することになる。覚醒剤は自分を殺してしまうものなので絶対に使用してはいけないものだと思った。(1年男子)

薬物は少ない量でとても値段が高く、一度の使用でもその人の人生が暗いものとなってしまふものなんだと思いました。私は絶対に薬物には手を出したくないと考えていましたが、最近の薬物には「チョコ」や「アイス」など、ぱっと見安全な薬にも見えてしまうので、間違っ買ってしまふのではないかと不安になりました。そのようなことにならないために、今からしっかりと薬物について正しい知識を身につけていかなければならないと思いました。もしかしたら薬物は私の住む場所でも売られているのかもしれませんが、0.1gでも1万円…値段も高く、しかも薬物には依存性があるので一度だけならと軽い気持ちで薬物を買ってしまうと、また次の薬物がほしいとなつてしまい、だんだんお金が足りなくなり最終的には自分の体を売ったり、友達や親のお金を盗むなど犯罪の道へとどんどん進んでいくと思います。薬を買うことは自分の人生を売ることだと私は考えました。

もし、私自身が薬物に手を出さなくても私の友人が薬物に手を出そうとしていたら薬物の恐ろしさをその人に教え、その人が困ってしまう前に助けてあげたいです。今回のお話は、将来、看護師になりたいと思っている私にとって薬物に関するお話を麻薬取締部指定薬物専門官の方から直接聞くことが出来、とても興味深い一時間となりました。お話を聞いて私も薬物についてもっと知りたいと思ったので、インターネットや本で調べて正しい知識を身に付けていきたいです。(1年女子)